

Fukuoka University

MEDICAL SCIENCE

NEWS

No. 80

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

今後の医学部・病院連携の課題について

医学部長 小玉 正太

朔学長(前学部長)が3期・6年間学部長を勤められました後任として、令和元年12月より医学部長に就任いたしました。前学部長により数々の学部内改革がなされ、多くの成果が成されました。ただその中で今まであまり注目されてこなかった、今後学部と病院が深く関わる新たな課題が提議されます。

- #1 学生・研修・大学院教育からみた学部・病院間情報共有
これは事務レベルから教官レベルまで広く共有すべき情報が浸透せず、分業故にその責務を皆が回避する現状です。
- #2 学部・病院教職員の統合されたキャリア・パスや教育セミナーの充実
学生・教官・他のスタッフへ、数々の啓発や教育セミナーなどを再統合し、目的別にアナウンスして学部病院間で情報共有(#1)すべきです。
- #3 学部生・他職種連携が触れ合う意見交換の機会
学部内では教務・入試・学生部委員会(旧FD委員会)へ学生会の学部生が参加する機会があります。院内でも関連する委員会へ部分的な学生参加を検討して頂ければ、貴重な機会となるはずです。
- #4 卒後研修生に関する福岡内外からの拡充方策
福岡大学関連病院での卒後研修医の拡充を図るため、学部と病院での教育部門での連携・統合が必要となっています。地域枠推薦入学者の入試案内を含め新たな方策が必要となっています。
- #5 学部生の病院実習に関する更なる充実と評価再考
実習への評価法再考が教授会で審議されています。大学の目指す卒業アウトカムに向けた、プロフェッショナルリズムが盛り込まれています。

- #6 病棟実習から卒後研修に至る充実した教育システムの統合と担う部署の拡充

Academic Research Organization (ARO) 構想の中で(#4に繋がる)学部内の部門設置と、卒後臨床研修センターや臨床研究支援センターとの連携やパス構築が必要と考えています。



上記以外の方策として個々の問題点をPlan(P)-Do(D)-Check(C)-Action(A) からなるPDCAサイクルを効率的にまわすことが、教育の場では求められていますが、プロセスを重要視し即時性がありません。報告や評価への導線を縮め、現場ではObserve(O)-Orient(O)-Decide(D)-Action(A) からなるOODAループで現場適応型対応に変え教官やスタッフの皆様には学生指導に当たって頂ければと考えています。現場の教官からよく聞かれる医学部生の意見として「積極性を感じない」、「座学での基本知識が不足している」、「診断・治療を理論的構築から選択できない」などがあります。教官やスタッフの皆様には、迅速な観察や判断のもと“OO”で留まらず、ベッドサイドでは学生へ是非“DA”の対応までお願いしたいと思います。

3月中旬の現在、学部・病院ではコロナ感染症問題に関連する様々な影響が出ました。式典・学会・会議の中止・延期が次々と決まり、まだ夏以降の明らかな見通しすら難しい現状です。学部病院間ではクリニカル・クラークシップの中断を決定し3月は病棟・外来から学生諸君の姿が消えました。本年度の白衣授与式でも話しましたが、他道府県の医療現場では緊張感を肌身に感じている医学部生もいたはずで、学生諸君には医療人として生涯臨む覚悟を共有し持ち続けて欲しいと願っています。

研究推進部長に 就任して

福岡大学研究推進部長 野田 慶太

福岡大学医学部研究推進部委員を4年間務めさせていただき、2019年12月に研究推進部長に任命されました。医学部の研究推進部委員は、福岡大学医学紀要の編集委員長も兼任しますので、この場で、医学紀要に投稿いただいた先生方、12名の福岡大学医学紀要の編集委員の先生および事務局を担当いただいた坂本玲子さんにお礼を申し上げます。

研究推進部は1956年に設置され、2011年4月に「研究部門」と「産学知財部門」の2部門からなる組織に再編され、研究推進、産学官連携及び知的財産の分野を一体化させました。

各部門には、大学からの研究資金の援助が受けられる学内公募の多数の研究所・研究チームが設置されています。研究部門には、本学における研究基盤の将来的構築に寄与することを目的とした基盤研究機関、科学研究費補助金等の採択を受けた研究課題を基にさらなる発展的研究課題を設定したプロジェクト研究チーム、総合的、国際的、学際的な共同研究の総合科学研究部及び学術領域的な共同研究の領域別研究部があります。一方、産学知財部門には、産学官連携活動の推進を図り、研究成果の実用化等の促進を目的とした産学官連携研究機関があります。

現在も福岡大学病院臨床研究支援センター長を兼務して

いますが、人を対象とする研究の環境は厳しく、昨年、文部科学省の視察において福岡大学も研究倫理及びコンプライアンスの遵守を強く求められ、研究者は多くの規制を受けながら研究の申請、実施、研究終了後の対応が求められることになりました。具体的には、研究不正を防止し、研究を適正に実施するために、毎年、研究倫理及びコンプライアンスの教育を受けなければなりませんし、大学としてもその体制を構築するために新たな大学規程を作成し、職員の皆さんに周知徹底しなければなりません。

一方、研究機関たる大学は、研究の成果を知的財産として権利化し、社会に還元していかなければなりません。そのためには、質の高い研究が求められるのと同時に、社会・医療の現場におけるニーズの発掘から研究を企画することも求められます。

今後は、現場におけるニーズの発掘、大学全体の研究推進、研究者の支援のために改革・改善及び新たな取り組みに努力していきたいと考えています。



学位取得

次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による
学位取得者
[令和元年9月13日]

・高原 正樹(病態構造系専攻)

論文提出による
学位取得者
[令和元年10月3日]

・中尾 明(医学部呼吸器内科学 助教)

・平野 涼介(呼吸器内科 助教)

・三木 浩一(脳神経外科 助教)

・津川 潤(筑紫病院脳卒中センター 講師(第4条第7号))

・田中 潤(整形外科 助教)

・安部 伸太郎(医学部麻酔科学 助教)

・川野 恭雅(救命救急センター 講師(第4条第7号))

・大賀 保範(医学部皮膚科学 助教)

・鶴田 紀子(NPO法人西日本炎症性皮膚疾患研究会)

・平野 由紀子(筑紫病院外科 助教)

・岩下 英之(西新病院消化器内科 助教)

・西嶋 智洋(九州がんセンター老年腫瘍科)

就任3ヶ月で思うこと

福岡大学病院長 岩崎 昭憲

このたび2019年12月1日より病院長に就任し3ヶ月たちました。

医療を取り巻く環境は急速に変化し、大学病院といえども、医療制度や社会環境に即応することが重要であると実感しています。「働き方改革」や「同一労働同一賃金」「新専門医制度」「診療科の偏在」などには、決定打を見いだせないのが現状です。それに加えて「新型コロナウイルス感染症 COVID-19」は最も対応が急がれる課題となりました。福岡で感染者が報告されましたが、一刻も早い収束が望まれており、私たちが大学病院として果たせる役割を担っていきたいと考えています。

現在、新本館建設の基本設計は終わり、2023年秋の竣工に向けて鋭意準備を進めています。建物や設備だけでなく、人も充実した素晴らしい体制の病院を目指しています。外科医でもある私は、何事も自分の目を見た現場情報でないと実感が得られません。このことが院長回診を始めた一つの動機です。診療科や部門回診だけでなく、天井裏を覗いたり、地下のボイラー室を視察したり、屋上に上ったりすることで日本館の損傷程度を理解することができました。これらは、どの程度の修理維持が必要かの判断に役立っています。

就任してまだ約3ヶ月ですが、大きな組織ゆえ迅速な行動ができないなど窮屈さも少々感じます。しかしながら各部署の理解を十分得て進むために、直接対話する時間を多くとることに努めています。そして、決定後は期限付きで迅速に実行に移すことにしています。

経営基盤の安定も重要な課題と考え取り組んでいます。新旧本館の移行期に、どのよ

うな新機器を投入するかの戦略が必要ですが、今年は最新のリニアック治療装置(IMRT)、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)などの最先端治療導入の準備を進めています。

朝7時30分から個々の診療科との経営カンファレンスで、弱点分析や強化箇所の点検を行っています。また同時に病院全体の支出分析と削減実施に取り組んでいます。診療部長会で早速に取り組んだペーパーレス化もその一環です。

危惧される課題に、当院での初期臨床研修医の減少があります。教育病院としてのプログラムの魅力低下や、指導医、施設整備、待遇の対応不足などが原因と思われます。これを如何に回復させるかは、医学部や臨床研修センターとの連携はもとより病院全体で取り組む姿勢が重要と考えます。

おわりに：私の好きな言葉に「万里一空」があります。

これは、目的、目標、やるべきことを見失わずに励む、頑張る続けることの意です。宮本武蔵が修行で到達した精神的境地だそうです。もちろん、私は病院長に就任してわずか3か月で、まだまだ修行?が始まったばかりですが、この境地に近づけるよう頑張っていきたいと思います。

皆様からのご支援を、今後とも宜しくお願いいたします。



長い間ありがとうございました

令和元年10月1日～令和2年2月29日までに退職された方

■ 金澤 和貴 准教授（整形外科）

■ 村田 将春 准教授（産婦人科）

以上、12月31日付け

筑紫病院長に 就任して

福岡大学筑紫病院長 柴田 陽三

皆様、こんにちは。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。昨年4月より、福岡大学筑紫病院長に就任しました柴田陽三と申します。前病院長が昨年3月で職員定年を迎えられたために、まず残りの半年の任期を全うさせて頂きました。昨年12月から新たな任期がスタートし、引き続き2年の病院運営を任せられることになり、その重責に身の引き締まる思いを致しております。当院は大学病院として初めて地域医療支援病院に指定されております。また現在は地域がん診療病院の指定を受けています。地域における脳卒中に関する診療体制の整備を進め、地域医療支援病院の役割の一つである救急医療の充実を図ってまいります。

昨年8月から職員の労働環境の改善のために病院の完全週休2日制を導入致しました。導入後、大きな混乱もなく、職員に対して行われたアンケート調査でも大部分の職員よりご理解が得られております。今後は筑紫病院の機能を充実させながら、業務の一層の改善を進めて参ります。ドクターズクラークの増員を図ることで、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が患者様に接する時間を増やし業務の効率化を目指します。令和2年度からは診療部長会のペーパーレス化を始める予定です。紙資源の節約、事務職員の労務

軽減によってコスト削減効果が得られます。業務委託につきましてはサービスとコストのバランスを考えながら見直しを行っている所です。令和2年3月にはそよご保育園が新築移転します。病院機能の維持、向上に経験豊富な看護師の力は重要です。スキルアップした看護師さんが育休後、安心して職務に復帰出来る体制を構築します。新保育園は2名の病児保育が可能となっています。

令和2年度からは循環器内科に河村彰先生、呼吸器内科に石井寛先生、病理部に二村聡先生が教授に就任予定です。新しい力によって病院機能の一層の発展が期待されます。

当院の基本理念である「あたたかい医療」を忘れることなく、地域医療を支援する大学病院としての役割を認識しつつ、より高い専門性と高機能で充実した医療を提供できるように努力して参ります。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



第46回 医学部慰霊祭



第四十六回福岡大学医学部解剖体慰霊祭は、ご遺族並びにご来賓の方々、本学教職員と学生約四百名が参列し、令和元年十月十九日(土)午後二時から福岡斎場において厳粛に執り行われました。

今回祀られた霊位は、学生の医学教育の目的で、系統解剖のために献体された四十二柱、病院で死去されて病因究明のために病理解剖を御承諾頂いた二十八柱、合わせて七十柱でした。

献灯献花の後、厳粛な雰囲気につつまれて慰霊祭は進行し、朔啓二郎医学部長は祭詞の中で、医学の発展のために欠くことのできない解剖にご献体頂いた霊位とそのご遺族、さらに、ご協力を頂いた各種関係機関に敬意と謝意を表されるとともに『私どもは、日々花を供え、香をたいて七十柱の科学に対する貴きご献身を偲び、敬意と感謝の念を表していますが、本日、ここに一堂に会し、皆様方の崇高な御遺志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できますよう努力することをお誓い致します』と新たな誓いを披瀝しました。

福岡大学西新病院 病院長に就任して

福岡大学西新病院長 三浦 伸一郎

福岡大学西新病院は、平成30年4月1日、石倉宏恭先生を病院長として、福岡大学が福岡市医師会より福岡市医師会成人病センターを事業譲受し開院いたしました。私は、その後を引き継ぎ、令和1年12月1日より病院長を拝命いたしました。

福岡大学は、地域医療に貢献すべく、3つの病院「福岡大学病院」、「福岡大学筑紫病院」、「福岡大学西新病院」を開設し、「患者さん中心の寄り添うあたたかい医療」を展開しております。また、西新病院の前身である成人病センターは、長く福岡市の地域医療を支えてきました。現在もこの成人病センターの精神を継承し、地域と密接な連携を取った病院としての機能を継続するように職員一同、取り組んでおります。

西新病院は、「地域に信頼される医療の提供」を基本理念とし、地域の医療機関からの紹介患者さんを速やかに受け入れるように心がけております。また、この病院の特徴を活かして福岡大学病院などの高度専門医療機関との連携により、地域医療と高度医療とを橋渡しできる新しい形の地域医療連携を可能にできる病院を目指しています。

診療科目は、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、

糖尿病・代謝・
内分泌内科、
一般内科、小
児科、脳神経

内科です。内科系診療科は、一般内科のみならず、それぞれの領域の専門医師が開業医の先生方からの検査や入院のご依頼に迅速に対応し、小児科は、ご紹介いただいた入院依頼の患者さんを受け入れております。また、以前より実施しております健診も継続させていただいております。

最近の医療側におけるキーワードは、「多職種協働」や「チーム医療」です。西新病院でも医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、医療事務といったメディカルスタッフによる「多職種協働」により患者さんの検査・治療に従事しております。さらに、感染対策、医療安全、栄養サポートなどの面では「チーム医療」を展開しております。

令和2年の西新病院は、今後も地域医療のニーズに答える発展的改革を実現する所存ですので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



祝 福岡大学医学紀要第46巻 優秀論文賞

高橋 宏幸 (再生・移植医学)

「Vascular Endothelial Growth Factor C Upregulates Trans-Lymphatic Metastasis in the Murine Liver by Recruiting Bone Marrow-Derived Cells」

平瀬 正康 (歯科口腔外科学)

「Effect of Anterior Displacement of the Chin on Pharyngeal Airway Morphology in Skeletal Class III Malocclusion Patients Treated with Orthognathic Surgery」

大学院への入学を 歓迎します。

福岡大学医学研究科長 松永 彰

2019年12月より医学研究科長に就任した松永 彰です。医学研究科は、医学や看護学に関する高度な専門的知識を備え、地域社会をはじめ日本及び国際社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念としています。私自身1980年に福岡大学医学部医学科を卒業し、1986年に医学研究科博士課程を修了しています。井上隆司先生、竹下盛重先生らが、苦勞されて整備が進んだ医学研究科を引き継いで更に発展させたいと考えています。

福岡大学の大学院=研究科(Fukuoka University Graduate School)には人文科学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、理学研究科、工学研究科、薬学研究科、スポーツ健康科学研究科、法曹実務研究科(法科大学院)、そして医学研究科の合計10の研究科があります。医学研究科の中での専攻科としては、博士課程(4年間)として、人体生物系、生体制御系、病態構造系、病態機能系、社会医学系、先端医療科学系の6系の専攻があります。また、独立した修士課程(2年間)として看護学専攻(修士論文コース、高度実践看護師コース)が存在しています。

医学研究科博士課程への入学は、6年制大学である医学、歯学、薬学、獣医学の卒業者(見込み)、およびそれ以外の学歴・研究歴の方は出願資格審査で認められた人が対象となります。修士課程の看護学専攻への入学は、保健師・助産師・看護師いずれかの資格を取得(見込み)し、出願資格に十分な学歴・研究歴がある人が対象です。博士課程の入学試験は年1回2月に、看護学専攻(修士課程)の入学試験は年2回秋季と春季に行われます。いずれも語学試験、小論文、面接にて実施され、それぞれ医学研究科博士課程小委員会、修士課程小委員会にて入学の可否が判定されます。医学研究科には毎年多数の入学を頂いていますが、大学院の発展のため、更に優秀な人材を多く集めたいと考えています。社会人として働きながら医学研究科に入学される方も大いに歓迎します。

どうぞよろしくお願ひ致します。



福岡大学医学会第81回例会

■日時/令和2年2月19日(水) 18:00~19:00
■場所/医学部臨床大講堂

【進行】集会幹事 川寄 弘詔

- 1) **開会の辞** 集会幹事 川寄 弘詔
- 2) **会長挨拶** 医学部長 小玉 正太
- 3) **新任講演** [講演25分, 質疑応答5分]
講演者…川浪 大治(内分泌・糖尿病内科学 教授) 座長…小玉 正太
「合併症抑制を目指した糖尿病治療」
- 4) **福岡大学医学紀要 46 巻優秀論文賞授与式**
受賞者…高橋 宏幸(再生・移植医学)
平瀬 正康(歯科口腔外科学)
- 5) **受賞論文の要旨講演** [講演10分(質疑応答含む)]
① 講演者…坂田 直昭(高橋宏幸先生、留学中のため) 座長…小玉 正太
「Vascular Endothelial Growth Factor C Upregulates Trans-Lymphatic Metastasis in the Murine Liver by Recruiting Bone Marrow-Derived Cells」
② 講演者…平瀬 正康 座長…近藤 誠二
「Effect of Anterior Displacement of the Chin on Pharyngeal Airway Morphology in Skeletal Class III Malocclusion Patients Treated with Orthognathic Surgery」
- 6) **閉会の辞** 集会幹事 川寄 弘詔



講演された先生方を囲んで
(左から、小玉会長、坂田先生、川浪先生、平瀬先生、
近藤先生、川寄先生)

新風

令和元年度 10月1日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。

new phase



皮膚科学
講師

山口 和記

この度私は、皮膚科の講師として任用されました。平成15年に久留米大学医学部を卒業し、今日まで皮膚科の診療、習得にあたっています。

大学院では皮膚に薬剤や遺伝子等を高効率にデリバリーする研究を行い、実臨床では皮膚科全般やAGAの治療を行ってきました。AGAに関してお悩みの方がいらっしゃいましたら、お気軽にお声掛けください。

現在当科では今福教授のもと、乾癬、アトピー性皮膚炎、ヘルペスウイルス感染症の臨床研究、統計に力を入れています。病型、治療内容、経過等を客観的かつ正確にデータを収集、解析しています。大変な作業ですが、それにより、よりよい治療を行うことができるようになり、その重要性を痛感しております。今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。

福岡大学のレベルに恥じないよう、責任感を持ち、最新の知見を習得し、皮膚科の診療、教育に従事していく所存です。今後ともよろしく申し上げます。

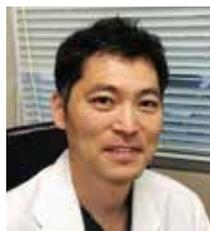


呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
講師

位藤 俊一

この度、岩崎昭憲教授のご推挙により2019年10月1日より外科学講座呼吸器・乳腺内分泌・小児外科講師を拝命いたしました。1984年に兵庫医科大学を卒業し大阪大学旧第一外科に入局の後、関連病院で修練しました。門脈血管抵抗に関する研究で学位を取得し、その後、肝臓や乳腺腫瘍に関する造影超音波診断の臨床研究等をはじめ乳腺腫瘍に関するAI診断の研究データにも協力しています。また、2020年2月には岩崎教授をはじめ福岡大学の先生方のご協力により第29回日本乳癌画像研究会を大阪で開催させていただくことができました。福岡大学の先生方や他職種の皆様のご協力のもと臨床研究活動に精進する所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。



皮膚科学
講師

柴山 慶継

このたび、今福信一教授のご推挙により2019年10月1日付で講師を拝命いたしました柴山慶継と申します。山口県宇部市で生まれ育ち、県立宇部高校出身で2004年に福岡大学を卒業し、卒業後臨床研修医を経て2006年に中山樹一郎前教授の当教室に入局いたしました。入局して2年目には沖縄の石垣島で地域医療を学んだ後に、2009年に国立がん研究センター中央病院(旧国立がんセンター中央病院)の皮膚科レジデントとして3年間、メラノーマをはじめとして皮膚悪性腫瘍の手術、化学療法など幅広く学ばせて頂きました。その後2011年に福大皮膚科にもどり、皮膚悪性腫瘍のオペからケモまで任せていただいております。2017年には今福先生のご指導のもと皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検をテーマに学位を取得させていただきました。

がんセンターレジデント当時は現在進行期メラノーマの治療の中心となっている免疫チェックポイント阻害剤ではなく、リンパ節郭清をはじめとした手術の手技を習得することが最大の目的でしたが、ここ数年でいろいろな新薬が開発され進行期メラノーマの予後が大きく変わってきたため手術だけではなくこれらの薬剤のマネジメントが非常に重要となってきました。これらの薬剤を使用するうえで様々な副作用は必発であり他科の先生方との連携が非常に重要となってきますため、今後とも何卒お力添え頂きたいと思っております。

今後、時代の波に乗り遅れることなく、よりレベルの高い皮膚悪性腫瘍の治療を患者様に提供できるよう努めていきたいと思っております。さらに学生の教育や臨床研究活動にも力をいれたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



産婦人科
講師

宮原 大輔

このたび、宮本新吾主任教授のご推挙により福岡大学病院産婦人科講師を拝命いたしました。私は福岡市内の産婦人科開業医の子弟として育ち、平成10年に福岡大学医学部産婦人科学教室に入局し、産婦人科専門医を取得しました。入局直後から婦人科手術に興味を持っていた私は、産婦人科専門医取得後は独立行政法人九州がんセンターや飯塚病院で婦人科腫瘍に対しての考え方や手術手技を研鑽してきました。平成25年4月からは福岡大学病院に復帰し、平成26年5月に婦人科腫瘍専門医を取得

し、平成27年4月に産婦人科指導医と化学療法認定医も取得しました。また、平成28年9月に宮本新吾教授のご指導のもとに社会人大学院生として臨床に従事しながら学位を取得させて頂きました。現在、婦人科手術は開腹手術から鏡視下手術に移行し、さらにロボット支援下手術に移行しています。抗癌剤治療も標準的な化学療法だけではなく、分子標的治療薬が開発されるなど全ての治療が日々進歩しています。そのためにも私自身も診療・研究・教育に対して日夜努力しなければなりません。そして、社会活動なども含めて大学病院としての責務を果たしていきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をよろしく願ひいたします。



手術部
講師

重松 研二

秋 吉浩三郎教授のご推挙により、令和元年10月1日付で福岡大学病院手術部講師を拝命いたしました。生まれは福岡県小郡市、小学校から高校まで北九州市で育ち、1998年に福岡大学医学部を卒業、臨床研修終了後に麻酔科に入局しました。大学病院、北九州市立医療センターで研修した後、2006年から2年間米国the University of Texas Medical Branchへ留学し、熱傷によるケモカインの役割についての基礎研究に携わり、2011年に学位を取得しました。現在は手術室、外科系ICUおよび周術期管理センターで、手術を受ける患者さんの術前～術中～術後にかけて全身的な管理を行っています。

1992年に入学して以来、早いもので四半世紀を福岡大学で過ごしております。大学病院での仕事は臨床・研究・教育が求められますが、近年教育の大切さを改めて実感しています。安全で高度な医療技術を提供でき、真摯で謙虚な態度で命と向き合うことができるような医師を育てることで福岡大学の発展に貢献したいと考えております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。



筑紫病院循環器内科
講師

高宮 陽介

平 成31年4月より筑紫病院循環器内科講師を拝命しました高宮陽介と申します。

私は福岡県宗像市で生まれ、福岡県立福岡高校を卒業後、平成9年に福岡大学医学部に入学しました。

平成15年より朔啓二郎先生の教室である福岡大学循環器科に

入局、平成17年に福岡大学大学院に進学しました。朔教授、三浦伸一郎教授の御指導の下、臨床研究に携わらせて頂きました。積極的脂質降下療法の心臓カテーテル治療への効果について研究し学位を所得しました。最近では冠動脈疾患のLDLコレステロール管理目標が70mg/dl以下は周知の事実になりましたが、この時期にLDL-C 70mg/dl以下の有効性を示せたことは有意義であったと思います。

大学院卒業後は、白十字病院、済生会福岡総合病院、福岡大学筑紫病院、福西会病院で循環器疾患や心臓カテーテル検査・治療の修練を積みました。平成29年より再度、筑紫病院循環器内科に赴任し、現在浦田秀則教授、白井和之准教授、松尾邦浩診療教授の下に、心臓カテーテル治療や循環器疾患治療に勤んでおります。

また、筑紫病院循環器内科は地域住民を対象とした臨床研究が盛んであり、多くの論文を輩出しています。私もその一部に携わらせて頂き、研究の難しさを改めて実感しています。今後も心臓カテーテル治療を中心として、診療と研究に貢献したいと思っております。

趣味はスポーツ鑑賞であり、特に箱根駅伝は毎年没頭します。箱根駅伝では叩き上げの選手が4年間努力して最後に箱根地を好走する姿に感銘を受けています。

筑紫病院は、スタッフ同士の連携もよく明るく元気な職場です。私も福岡大学・筑紫病院の発展に貢献できたらと思っております。

今後とも皆様のご指導のほど、何卒よろしく願ひ申し上げます。



博多駅クリニック
講師

武岡 宏明

こ のたび、大慈弥裕之前副学長、鍋島茂樹教授のご推挙により令和元年10月1日付で福岡大学博多駅クリニック講師を拝命いたしました。私は、2002年福岡大学医学部卒業後、九州大学病院総合診療科に入局しました。実はこのときの九州大学病院総合診療科の医局長が鍋島教授であり、私の研修指導医もしていただきました。九州大学病院、長崎県壱岐での離島医療、九州大学大学院での臨床研究での学位取得、九州医療センター勤務を経て、2010年福岡大学病院総合診療部に参りました。医局長7年(うち3年病棟医長兼務)の中で、他科の先生方に連携・ご協力いただき、多くの臨床経験をさせて頂きました。

2017年10月より福岡大学博多駅クリニックへ異動し、大学病院と異なり、多種多様な主訴の患者さんの来院が多く、総合診療のニーズを強く感じる毎日です。私の外来診療のモットーは、笑顔で明るくです。今後も福岡大学の発展のために少しでも貢献できるよう精進したいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。